



丸嘉は環境ビジネスに挑戦。(円内は小畑社長)

丸嘉、古材事業へ参入

FC「古材ぐるめ」に加盟

老舗小売りの丸嘉(京都市伏見区、小畑隆正社長)は今月末から、古材事業へ新規参入する。アイモク(愛媛県伊予郡松前町、井上幸一社長)が運営するフランチャイズ(FC)システム「古材ぐるめ」

に加盟し、「建て替えや解体が進む。京町屋」の素材だけでも残し、再利用の道を探りながら環境ビジネスに挑戦していく。(小畑社長)の狙い。

丸嘉は、明には現在、築後60年以上の治16年に初代解体されようとしている京の小畑嘉吉氏町屋が多数あり、独特な趣が創業。昭和51年2月には小畑嘉蔵会長が法人化した。小畑社長は先ごろ5代目を承継したばかり。京都

「木のプロ」として、そこで、「木のプロとして再利用の道を見つけられないものか」(小畑社長との問題意識のもと、古材事業への参入に踏み切る。具体的には「古材買取り」を踏まえ解体工事の請負②構造材や建具をそれぞれに民具など古材の販売③古材を使った住宅及び店舗のプロデュース④ホームページ「古材

FCUJ」(<http://www.kozai.net>)を通じた情報サービス、とくに②について、先行きアスベスト問題で解体費用の上昇が見込まれるなか、「解体並びに廃棄物処理コストの削減に尽力したい」という。また、町屋がマンションに建て替えられた際には、内装向けにもう一度、古材を再生させていく。

そして、FCネットを通じて相場形成機能や在庫機能など新たな流通機能を担う。一方、京都という土地柄を生かしつつ地域の相互協力体制を作り出すため、地場の工務店や解体業者、製材加工業者ともそれぞれ手を結ぶ。当面は古材ビジネスで年商1億円の売り上げが目標。将来的には「古い伝統の上に革新的な演出を付加して、古財、銘木に生まれ変わらせたい」(同)と、次世代型銘木商への脱

皮をぬぐ。

な特、問い合わせは同社(電話075・622・1408)まで。